



「声」の欄・投稿規定

- ★「声」の欄は読者の皆さんのお考えを、直接誌面に反映させるためのページです。皮膚病の診療に関する日ごろのご意見、新しいアイデア、ご提言などをお気軽にお寄せください。とくに日夜第一線で診療に活躍しておられる先生方からのご投稿を切望します。
- ★「声」の欄には、また皮膚病に関する“質疑応答”を取り上げます。お寄せいただいたご質問は、その方面の権威に依頼して適切な回答を用意し、誌上で発表いたします。とくに回答者を指名されても結構です。
- ★字数は一般のご投稿は1,200字以内、質問は600字以内を原則とします。
- ★ご投稿は郵送のほか、FAX（番号：03-3984-1003）とE-mail（アドレス：hs1979@intage.com）にても受け付けております。
- ★原稿には住所・氏名を明記していただきます。

やけどのイタリア風(?)治療法

やけどや傷の治療には、それぞれの土地に根づいたものが長年の経験則を基に外用薬として使用されてきた。古代ギリシアではハチミツが、日本では味噌が用いられてきた歴史があり、たとえばこのハチミツの殺菌作用が現在のイソジンシュガーにつながっていると思えば、医学の連綿性は面白い。

さて、イタリアといえばオリーブオイルとは切っても切れない深い関係にある国だが、彼の地ではやけどの応急処置にもオリーブオイルがいまでも使われているという。なんでもやけどの部位にオリーブオイルを塗っておくと、翌日には腫れが退けているのだ

とか。ちなみにエクストラ・ヴァージン・オリーブオイルに含まれる天然有機化合物・オレオカンタール(oleocanthal)はチロソールエステルの1種であり、シクロオキシゲナーゼ(COX)を非選択的に阻害する抗炎症作用を有している。

だとすれば、やけどの初期治療に使用しても効果が期待できるのではないだろうか。ハチミツにしてもオリーブオイルにしても、いわゆる「おばあちゃんの知恵」はただの迷信的ないい伝えではなく、歴年の効果に裏打ちされてきた伝承記録と考えるべきなのかもしれない。

石川 博康
(八戸市・湊高台皮膚科)